

//////////////////// チョコ募金で福島を元気にしたい！チョコ募金約1万個が福島支援になります！ご協力を！ //////////////////

福島原発事故から 7 年—さあ、これからだ！ 世界に「原子力防災」を広めよう

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）× 鎌仲ひとみ（映像作家・JIM-NET 理事）

◆あの日、あのときのこと

佐藤：鎌仲さんは原発事故が起こった時、どんなふうにしたんですか？

鎌仲：うーん、しまった！という感じだったかな。ちょうど「ミツバチの羽音と地球の回転」が劇場公開中（渋谷ユーロスペース オーディトリウム）だったからね。2 回目の上映の真ん中くらい。すごく揺れたから、映画を止めて、みんなを誘導して、外に避難させ、揺れがおさまって、「皆さんこれからお帰りにになりますか？」って言ったら、「映画途中だったから見たい」って。で、ほとんどの人が戻って、最後まで見て。私は「原発事故が想定されるから、ここまで放射能が飛んでくる可能性があるから、逃げてくださいな」って。次の回は電車止まっているし、誰も見に来ないだろうと思ったら、3 人来たんだよ。

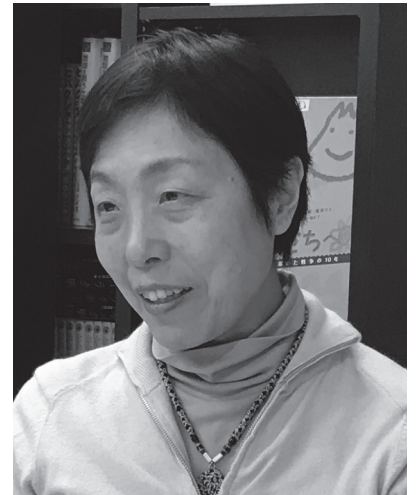
佐藤：へええー！

鎌仲：だからもう一回上映して、でもそのときにはもう夜になっていたから、帰宅困難者があふれていて、Twitter で支配人と話して劇場を開放したの。

佐藤：何人くらい来たんですか？

鎌仲：30 人位来ました。そうこうしているうちに福島原発の電源喪失。私ね、その初日は、福島なのか東海なのか女川なのか、わからなかった。あとから聞いたことによると、女川も東海第二もギリギリセーフで、福島は第一と第二があるからどっちだかわからないし。そこらへんの情報はあんまりなかったよね。

佐藤：（JIM-NET 事務所がある）高田馬場は「福島原発が止まっているので、電気が来ない。だから節電してください」と。放射能の話じゃなくて。そういうアナウンスがバーッと流れました。



鎌仲：やっぱり「原発がないと電気がないんだ」って演出しちゃったんだよね。あのときに。

佐藤：計画停電で電車もなかなか動かないし。

鎌仲：計画停電なんか、する必要全然なかったよね。そのおかげでみんな迷惑をこうむった。あのときに、東京のかなり多くの飲食店が計画停電で店が赤字になって、つぶれたんだよ。その経済的負債を抱えたまま 7 年を。そこにも犠牲者はいるよね。

◆鎌仲ひとみの見た 7 年

佐藤：震災があって、原発事故があって、今どうなのか。その中で鎌仲さんの活動を紹介していただけますか。

鎌仲：もう 7 年、まだ 7 年っていう感じ。何か、相当風化したと思う。だから、危機感は結構下がっているよね。人間そのものが持っている「忘れたい」っていう本能。思い出そうーんと苦しくなるから。でも、避難した人たち、福島に残った人たちと話

NEWS

【対談】福島原発事故から 7 年—さあ、これからだ！世界に「原子力防災」を広めよう

佐藤真紀（JIM-NET 事務局長）× 鎌仲ひとみ（映像作家・JIM-NET 理事） 1

【イラク現地報告】イラク戦争開戦から 15 年～終わらない戦争 斉藤亮平（JIM-NET アルビル事務所） 4

《パンフレット》がんの子どもたちから学ぶ 10 のこと 5

【アドボカシー】シリアに停戦を！ 内海旬子（シリア和平ネットワーク運営委員） 6

【イベント報告】2018 チョコ募金キックオフイベント「HAPPY」／イラク 15 ～イラク戦争を振り返る 15 年展 8

鎌田代表の直筆メッセージ／JIM-NET 募金グッズ☆今治タオルハンカチの新作できました！ 8

をしていても、まだものすごく傷ついているよね。

佐藤：傷がどんどん広がっていたということがあるじゃないですか。断絶というか、分断みたいな。

鎌仲：最初の災害よりも、その後に起きた、家族と家族が引き裂かれたとか、友達同士が引き裂かれたとか、地域が引き裂かれたとか。それが自分の中に、いろんな罪悪感を植え付けちゃうんだよね。3・11前は無防備だったから、みんなが初体験で渦の中に巻き込まれたから、余計に傷つきが深かったと思う。

佐藤：とくに分断というのは、最初から全く予測もできないじゃないですか。

鎌仲：今みたいな状況になっているのは私も予測しがたいものがあるって、というのは、政府が放射能の安全基準を20倍にするというのはちょっと予測できなかった。

佐藤：最初って、もっと話してたよね。政府が言ってたけど、嘘だろうなんて。そもそもこんな原発はやめようなんてところまで行った。それが解決せずにずるずると風化して、外野の人たちが無関心になってきているというのは何なんですかね。

鎌仲：無関心というか、振り返ってみると、最初はみんな心配だから外にいる人たちは「早く逃げて！」と言ったわけじゃない。放射能があること＝危険だから、被災者に対してだけ言ったんじゃなく政府に対しても「安全なところに避難させなさい！」と盛り上がった時に、福島を中心とした人たちは傷ついたんだよね。本人たちは心の底では避難したくないでしょ。政府はいきなり「大丈夫」って言ったわけでしょ？つまり、そう言ってもらいたかった人たちに、そう言ってあげた。ただちに避難しなくてもいい、と。佐藤：緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)が公開されなかったって言うのはとんでもない話なんですけれども。そういう民主党、あとを引きついだ自民党、その差っているのはあるんですか。

鎌仲：これは全く私の個人的な考え方だけど、千年に一度の未曾有の国難だったわけでしょう？それまで政権を長く担当してきた自民党にも、責任があったわけじゃない。当時の政権は民主党だったかもしれないけど、この国難に力を合わせましょうって、自民党が言えなかった。そこは大きいと思う。自民党はやっぱり、政治的に使ったと思うんだよね。

佐藤：菅叩きにみんななっちゃってさ。

鎌仲：本当はテレビ会議やるなんて、長年ずっと避難訓練やってきた担当者からしてみれば、当たり前。東京電力には防災用のテレビ会議をする部屋があって、そこリアルタイムでやりとりできるってわかっていたはずなのに、やろうとしなかったわけでしょ？そういうことをいちいち検証しないまままで今日に至って、ないことにされるっていうことが、やっぱり一人一人の心が折れてしまうプロセスだったと。

佐藤：自民党に戻っちゃったからそうなのかもしれませんけれども、事故が起きたから原発やめるみたいになっていたのが、一切そこは消去して、やりましょうって。

鎌仲：東京電力が実は津波が来るっていうことを想定していたにもかかわらず、何の対策もしていなかったことが明るみになるわけでしょう？それを守る勢力が自民党の中にあるから、東京電力も隠したかった。事故の時は原子力安全・保安院と内閣府原子力

安全委員会も機能しなかったし、だから原子力規制庁（規制委員会）をつくったわけでしょ？でも規制庁は今や、規制庁らしくなくなっていて、骨抜きになっているのは、やっぱり原子力ムラが今は元気だからだと思うんだ。でも一方では事故が起こって再生可能エネルギーはぐっと増えたよね。それはいいことよ。

佐藤：今原発は動いてないんでしたっけ？

鎌仲：川内原発2号機と、今1号機が点検中で、あと伊方原発が仮止め中で止まっていて、あと大飯が動いているよね（2018年3月5日現在停止中）。

佐藤：前はエネルギー全体の3割だったけど、それを動かして今はどうなのか。

鎌仲：10%もないんじゃない？九州電力は川内原発を動かしているけど、去年の夏あたりで太陽光パネルの発電量が全体の電力供給の55%だって。それでも原発を動かすっていうのは、それはまた別の理屈なんだよ。

〔注〕経済産業省エネルギー庁「2017年度エネルギー白書」によれば、2015年時点で原発は日本のエネルギー・発電の供給量割合全体の1.1%。2010年度は約3割を占めていた。

◆保養の権利を守る―ベラルーシの場合―

鎌仲：でも、お墨付きが付いちゃったんだよね。安全だっていう。保養をやっている人たちは、すごく大変だよ。実際、保養に行く人をバッシングするとか。

佐藤：保養という言葉を使わずに子どもたちを連れて行って、遊ばせよう。でもそれは保養なんだよっていう。核心のところ。傷つけるって言われてしまうから。

鎌仲：『福島差別論※』というのは、安全だということに乗っかって、例えば保養に行く人とか、甲状腺の検査をすることに関しても、それが差別につながるっていう考え方でしょ？でも、背後には、今までなかったリスクは生まれていて、みんなすごく不安を抱えているわけじゃない。その不安を口にしたときに、バッシングされるっていう。すごく巧みな言論封鎖なんだよね。

佐藤：それって日本特有？例えばチェルノブイリとかと比べて。

鎌仲：チェルノブイリは、私はベラルーシしか取材していないけど、ちゃんと言ってやってるよ。非常事態省が全汚染地域を土壤汚染も測って、地図作って、国民に開示してる。そこで、年間1ミリシーベルトが安全基準だから、超えたところはリスクがある。そこに住んでいる住人たちは、避難する権利を認めますよって。でも避難せずにそこに残るんだったら、保養しましょう。大人だったら、健康診断を半年に一回必ずやりましょう、その両方をきちんと補償している。オープンなわけですよ。

佐藤：日本の方が民主的な国ですね。ベラルーシは社会主義だったわけだし、独裁主義的な国ですよ？

鎌仲：でも、国民を守るっていうことにおいては、当たり前だったわけでしょう。すごく大きな視点で見れば、日本は原発を守り、ベラルーシは国民を守った。

佐藤：でも、最初は「国民を守ろう」と思ったんじゃないですか、日本も。

鎌仲：思っていないよ。だって、ものすごく早い時期に山下（俊一）さんが入って行って「安全です」ってことを言ったでしょ。で、

あとから「桁間違えた」とか。ちらっと「あれはちょっと言い過ぎた」って言うても、実は何一つ訂正してないと思うよ。

佐藤：桁が違いますもんね。100 ミリシーベルトとか言ってた。

鎌仲：人間は生涯、100 歳まで生きて 100 ミリシーベルトくらいだったら大丈夫じゃないかって。それも実は高いんじゃないかって、最近の知見ではそのようになってる。100 歳まで生きたとしたら 1 年 1 ミリじゃない。20 ミリシーベルトだったら、5 年で 100 ミリになっちゃう。それも、50 歳の人も、5 歳の人も同じようにいって言っている。おかしいでしょ？

佐藤：7 年経って、放射能が下がってきたのも事実ですよ。

鎌仲：そりゃ空間線量は下がる。だけど土壤汚染があるじゃないですか。しかも 73% の山林は全く除染してないわけだから。空間線量は除染してモニタリングポスト置いてるんだから、低いに決まってるでしょ？ 194 人も甲状腺がんになっているにもかかわらず、それに対して「根拠がない」って言われているし。検査は福島でも栃木でも茨城でも千葉でも埼玉でも。東京でもやったほうがいいと思う。「チェルノブイリのパターンと違うから、原発事故とは関係ありません」って言えないと思うんだよね。

佐藤：チェルノブイリは 5 年たって甲状腺がんが発生したけど、日本はもっと早くから増えた。

鎌仲：それはもう、チェルノブイリで事故が起きたのが 1986 年で、甲状腺エコーを 1991 年に信州大学が持って行って初めて調査したからでしょ？ なかったんじゃないくて、見つけることができなかったのよ。混乱期だったし、ソ連が崩壊したし。そんな中で大規模な検査をして、子どもたちをエコーにかけるような体制はどこにもなかった。5 年前に見つかったなかったからって言っているそのものの根拠は、ない。

佐藤：メディアがしっかりと伝えてほしいですね。

鎌仲：そういうことを専門家が言わないと、メディアはその専門家の意見として出せないんだよね。

佐藤：そうすると、サポート体制が大事になってくるじゃないですか。そこらへんが日本はなかなかうまくいってない。

鎌仲：例えばなんで、復興予算が富山県に 23 億もいって、ごみ焼却所を建てているのか。富山県民の中では「これは復興予算に使いたいから返してくれ」っていう裁判も起こっているんだから。いくつもの自治体にそうやってお金をばらまいて、例えば本来だったら自主避難した人たちの住宅支援を切らなくなったって、そのお金でできたかもしれないのに。復興するにしても、その復興の内実はどのようなものなのか。被害を受けた人が本当の意味で救済されるってことが、どういうことなのか。二度とこれを繰り返さないためには、何をしたらいいのか。そういうこと一つ一つが、なし崩しになっているような気がするんだよね。

◆世界に広げたい「原子力防災」

鎌仲：被ばく教育は必要だと思う。私は今やっているのは「原子力防災」をテーマに作品をつくって、キャンペーンもやって、安定ヨウ素剤をみんなで持ちましようとか。避難するための日ごろからの準備はどうするかとか。

佐藤：それは大事ですね。

鎌仲：福島原発事故を教訓にしてより良い対応ができるように、自分たちも学ぶっていうことを全国でやるべき。

佐藤：2015 年に仙台で開催された国連世界防災会議では、原発事故のことをきちんと訴えたいという思いを共有して JANIC が中心となって、アドボカシーを行いました。ピースボート、CWS、福島市民発電所、JIM-NET が中心に、「福島 10 の教訓」というブックレットを作っているんな言語で翻訳して世界に伝えていこうという運動を行っています。会議後も JIM-NET はこれから原発を入れようとしているヨルダンでアラビア語に訳し、現地でシンポジウムを行ってきましたが、もっとアラブ圏に原子力防災という考えを広めたいですね。今年は、モンゴルで、アジア防災閣僚級会合があるのですが、僕たちが言っていないと、原発事故の話は出てこない。原発に反対、脱原発、という運動して、それでも再稼働して、他国に輸出して、事故起こしたら、それ見たことかって言えない。意に反して原発が推進されても、防災だけはきちんとされないと。「命を守ること」が最優先だという考えを広めていきたい。

鎌仲：いま原子力ムラは、どんどん再稼働させていくから、東京に関していうと東海第二原発の再稼働がすぐリアルだし、浜岡も壁つくったんだよ。防潮堤を。3000 億円かけて。

佐藤：浜岡は廃炉にするんじゃないかったの？

鎌仲：1 号機は廃炉にしたけど、まだ 5 号機まであるから。

佐藤：政治家は次の事故は起こらないと思ってるんですかね。

鎌仲：次が起こったら「大丈夫逃げなくていいから」って言えばいいと思ってるから。でも、そのときに安定ヨウ素剤持ってなければ、甲状腺がんはまた起きるし。だから 5 キロ圏内は避難させるけど、5 キロ圏内だけなんです。今ちょうど「映像でわかる原子力防災」のキャンペーン中です。無料公開をしています。世界中の人に見てもらいたいと思ってるのよ。みんな福島のことにごく興味があるから、それをポジティブに生かすということですよ。（2018 年 2 月 21 日 まとめ：JIM-NET 便り編集部）

◆JIM-NET は、2011 年から福島の支援を行っています。

2015 年度までは現地に事務所を置いていましたが、福島の団体を助成する方針に転換。現在、年間予算 300 万円で、保養や、検診、自然エネルギー、人材育成などを支援しています。

気づいた人から始めている原子力防災

3.11 から 7 年が経ちましたが、もしも原発事故が起きたら、どのように自分たちを守れるのか。その問いに明解な答えはありません。しかし、その中でも、「今からできることはある」。

まずは「原子力防災」という考え方・言葉を広めていきましょう！
キャンペーンにご参加ください。

<http://canonbousai.strikingly.com/>

映像でわかる

原子力
防災

上映
キャン
ペーン

今からできることあります！

今はじめよう！原子力災害から身を守るすべてを。

新作「原子力防災」の製作が進行しております！

原子力災害に備えるために上映会を開きませんか？

新しい上映キャンペーンを始めます。



イラク戦争開戦から 15 年～終わらない戦争

斉藤亮平（JIM-NET アルビル事務所）

今年はイラク戦争から 15 年、かの戦争は風化の一途を辿り、その後もイラクやその周辺国では大きな戦乱に見舞われ、この地の人々の生活を破壊してきました。

イラクでは昨年 7 月に IS(過激派組織「イスラム国」)の掃討作戦を完了し、首相による勝利宣言がなされましたが現地ではそれほど大きな歓喜の声は聞こえてきませんでした。

理由を聞くと、「見てみろあの瓦礫の山、難民キャンプ、国内避難民を。」と冷静に答えるスタッフの表情が印象的でした。

常に戦争と隣り合わせで生きている人々は、激しい戦闘が終了したことが「戦争の終結」ではないということをよく知っているのでしょう。

先日、支援先でもあるアルビルのナナカリ病院で会ったモスル出身の患者(ファーティマ・2 歳 6 か月 右写真)とその家族もまたそんな戦争の被害に遭い、苦しい状況下でがんの治療を受けていました。



2 歳半の旧姓リンパ腫患者、ファーティマ

===

「一番下の娘ファーティマが急性リンパ性白血病（ALL）で治療をしてるんだ。けどもうこのままではお金のかかるこの治療を継続することもできないだろう。何もないんだよ、本当に何もない。お金も物も。」家の主であるファーティマの父は嘔みしめるようにこう話し始めました。

ファーティマ一家は 2016 年 12 月 18 日、IS のコントロール下にあった西モスルを決死の覚悟でハマムアルアリアル難民キャンプに家族で逃げ出しました。両親と子ども 5 人、寒い夜だったといいます。しかしファーティマの祖父だけは家を守るためにモスルの家に残りました。翌日、その家は IS からの爆撃により半壊、祖父も迫撃砲によって亡くなりました。

丁度同じころ、ファーティマの具合が徐々に悪くなり、最初に受診した病院では不運にも病気を見つけることができず、ようやく病気が発覚してナナカリ病院に来たのは今年の始めのこと。

「10 日間、何も買えていない状態だ。娘の治療のためにアルビルに引っ越してきたけど仕事は何もない。今はセメント工場の作業員部屋だった家が無償で貸してもらってるんだ。」

ただならぬ状況が即時に読み取れ、ローカルスタッフのドライバー・ラワンド共に車に家族を乗せファーティマの家まで向かいました。アルビル郊外の Perdawd という村に家があり、コンク

リート打ちっぱなしの家に親族も含め 14 人で住んでいました。2 階の 2 部屋で 14 人が生活しており、元々あったオーナーの家具以外には彼らのものは何もありませんでした。2 か月間ガスも買えず、夜は子どもたちが震えていると言います。

またファーティマ以外の 3 人の子どもたちは精神的な障害を負っていました。

話をしていると近所の人々が彼らのために食事を運んできました。

「こうして近隣からのサポートがあることは唯一の救いだ」と言葉を絞ったファーティマの父はもう一度言葉を絞りました。

「俺はいいんだ、俺はいいんだよ。でも子どもたちだけはなんとか・・・。」

病院で聞いた話よりも、目の前に広がった現実には辛苦に満ちていました。週末もまた病院に行かなければならないが、交通費さえも払えない現実。繋ぐ望みのある命が切れてしまいそうな音が聞こえてきそうでした。

JIM-NET は今できる可能な限りの 200 ドルの支援をしました。

帰り際、ローカルスタッフのアーデルが「IS の戦闘は終わったけど、戦争はまだ終わってないんだ。」とぼつりと言。

激しい戦闘が終了したことが本来の「戦争の終結」ではなく、生き抜いた人たちに突き付けられる現実、物理的な損失だけではないということに気付かされます。また助かるであろう命が脅かされ、生きるエネルギーを奪っていく現実、現地の人は今なお直面しています。

それから2週間後、ファーマの家族から電話があり病院に向かうと、ファーマとその家族が病院の外に立っていました。幾分和らいだ表情で、こわばっていた子どもたちの表情も明るくなっていました。「先日は本当にどうもありがとう。どこに助けを求めたら分からない時に JIM-NET が助けてくれた。そしてあなたたちのドライバーの家族がああ後、私たちの家にストーブと灯油を持ってきてくれたのよ。それだけじゃない、生活をしていくための資金を与えてくれたの。」ラウンドはその話を私にできなかったのですが、こうした個人間の支え合いがこの地域を支えているのだと改めて感じたと同時に、このような家族が一刻も早く元の生活に戻り、安心した医療を受けれることを願わずにはいられません。

また JIM-NET では 2017 年から JIM-NET ハウスをオープンさせ、社会心理的サポートも実施しナナカリ病院に来る子どもたちや家族の話や悩みなどを聞いてきました。先日、ソーシャルワーカーでもあるローカルスタッフのバルサンから病院に来てほしいと言われ、行ったところ、とびきりの笑顔で話をする急性骨髄性白血病 (AML) で治療中のアルビル出身のヴァネスト (12 歳 右写真) が一輪の花と男性用の帽子を持って待っていました。昨年 10 月にナナカリ病院で治療を開始し、当時は歩くことも出来ずに車椅子だったヴァネストに JIM-NET では抗がん剤購入支援だけでなく、スタッフは心理ケアも行い彼女に寄り添ってきました。当初は口数も少なかったヴァネストも今ではバルサンを兄のように慕い、この日は「どうしてもバルサン (ローカルスタッフ) と JIM-NET にお礼がしたいの!」と言ってプレゼントを持ったのです。

現在は月に 1 回に通院し、治療をしていますですが学校に行けないそうですが、数ヶ月したらまた復学予定とのことですが、やはり遅れた勉強を取り戻すのが心配とのこと。

JIM-NET では心理的サポートも充実させ、治療のために勉



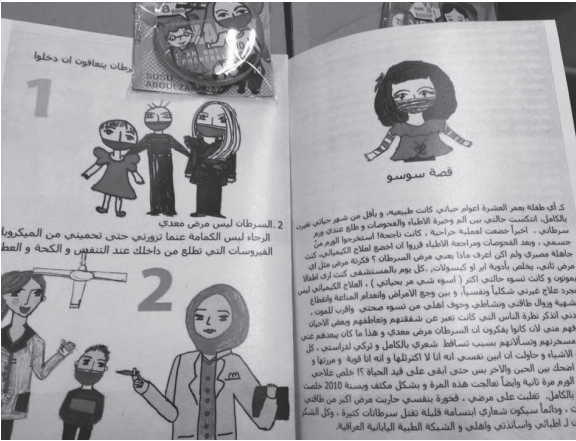
バルサン (左) を訪ねてきたヴァネスト (右)

強が遅れてしまった子たちに対して勉強のサポートも行ってきたと考えています。またそうした支援は現地ボランティア団体も力を入れ始め、4 月から建設が始まる JIM-NET ハウス開設を前に横の繋がりを作りながら活発化させていくべく、現在ローカルスタッフを中心にプログラムを考えています。抗がん剤支援やその時に応じた緊急支援も同時に行いつつ、これからも皆さまのご支援をより有意義に現場で使わせて頂きますので、これからはぜひがんの治療を受ける子どもたちを応援していただけたらと思います! どうぞよろしくお願いいたします。

《パンフレット》 がんの子どもたちから学ぶ 10 のこと

ついにできました! JIM-NET がイラク・アルビルの JIM-NET ハウスで力を入れているのが、「小児がん」の啓発活動。すでに現地の医師たちが ガンの説明と早期検診のすすめ と言ったパンフは作っていますが、今回 JIM-NET が作ったのはがん患者の気持ちを理解し、偏見や差別しないで欲しいと訴える内容です。まずは、アラビア語版とクルド語版を作成しました。2018 チョコ募金のチョコ缶の絵を描いてくれた SUSU を囲んでソーシャルワーカーたちがワークショップを行ってまとめ、SUSU の絵を使いしました (写真左が表紙、右が中面)。表紙と中面の地の色は黄色で、ポップなイメージに仕上がりました。

一部同じ絵をチョコ募金の缶に使いましたが、「かわいい」「おどろおどろしい」と言ったコメントもいただき、日本でも少なからず偏見はありそうです。現在、日本語版も作成中です。チョコとセットで、小児がんの取り組みに関する啓発活動ができればいいなと思っています。(佐藤真紀: JIM-NET 事務局長)



シリアに停戦を！

内海旬子（シリア和平ネットワーク運営委員）

2018年3月1日現在、2月18日以降の爆撃で死亡した人の数が東グータ地区で600人を超えた。報道は東グータ地区の空爆をセンセーショナルに報じているが、その他の地域でも戦闘が続いており、死傷者が毎日各地で報告されている。

国連の安全保障理事会は、2月24日に「シリア全土の停戦決議」を採択した。しかしそれは守られず、報告される死傷者数は増え続けている。東グータ地区を空爆するシリア軍は「空爆の目的はテロ撲滅」だというのが、犠牲者600人のうち150人弱が子どもである。「テロリスト撲滅」の名のもとに民間人が犠牲になっている。

シリア人からの発信や報道でこの事態を知り、JIM-NETもメンバーであるシリア和平ネットワークは、速やかな停戦を求めて

以下の声明文を2月23日に発表した。2月26日には、外務省の中東一課を訪ね、戦闘に直接介入しておらず、中立的な立場で交渉のできる日本の立場を最大限に利用して、すべての攻撃主体に停戦を求めるよう訴えた。

2017年には、一時期、武力紛争が終わるような気配があると伝えられ、人道援助団体の中には「シリア復興」へ舵を切っていると見受けられるところもあった。隣国のヨルダンでシリアに帰国する難民が出始めたという話もあった。しかし、ここにきて2013年以来最悪の死傷者を数える事態となっている。「イスラム国」(IS)が去り、新たな戦いが始まっている。ますます複雑になり、混迷を極めるシリア紛争。人々が安心して暮らせる日を1日も早く作れるよう、声を上げ続けるしかない。

シリアの武力攻撃を直ちにやめてください

私たちはシリアの紛争終結と和平実現に向けて、アドボカシー（政策提言）活動と確かな情報発信を実施していくために結成されたNGO、アカデミア、市民のネットワークです。

東グータにて、複数の部隊による武力攻撃が極端に激しくなり、爆撃と砲撃で、死者負傷者が250人を超えて増え続けていると報道されています。さらに、東グータでは6つの病院が攻撃で破壊され、何千もの人々が基本的な保健医療へのアクセスを失ったとの発表もありました。反体制派も首都ダマスカスに砲撃を行い、20日だけで13人の死亡が確認されています。

東グータ地方を含むダマスカス郊外県、デリゾール県南東部、イドリブ県南東部、アレッポ県西部や北西部（アフリーン郡）での無差別攻撃が激化しています。攻撃をしているのは、シリア軍、ロシア軍、イラン軍、イスラエル軍、アメリカ軍、トルコ軍、YPGに加えて、アル＝カーイダ（シャーム解放委員会）とさえも共闘して東グータで戦闘を続ける武装勢力です。

8年目に突入しようとしているシリア紛争では、すでに多くの住民が死亡、重傷を負っています。

武力攻撃を行っているすべての人たちに伝えます。攻撃を直ちにやめてください。

これ以上の犠牲者を出さず、シリアを平和な国にすることは国際社会の担う責任です。停戦の手続きを直ちに始めて、人々の安全を確保してください。負傷者にはすみやかに治療の機会を提供してください。不幸にも家族を亡くした人たちには、大切な家族とお別れをする時間を作れるようにしてください。破壊された土地で住むところも食べるものもない人たちに支援が届くようにしてください。

日本政府には、上記に関して問題解決に積極的に取り組まれるよう期待します。

すべての人たちの努力で、シリアに和平がもたらされることを切に願います。私たちはそのために声を上げ続けます。



♥ JIM-NET イベント報告 ♥

2018 チョコ募金キックオフイベント『HAPPY』

2017年11月22日、神野美伽さん（演歌歌手）、湯川れい子さん（作詞家・音楽評論家）、斉藤とも子さん（女優）をお迎えし、鎌田代表理事と佐藤事務局長とともにチョコ募金キックオフイベントを牛込筆筈ホールにて満員御礼で開催することができました。

当日の舞台には、神野さんが仕立てられたサブリーンの着物姿で登場。佐藤事務局長が編集したサブリーンや今年のチョコ缶の絵を描いたSUSU、2017年のチョコ缶に薔薇の絵を描いたシリア難民のタハニさん（残念ながらこのイベントの二日前に命を閉じました）の映像を交えたトークに続き、40分間の神野さんのソロコンサートを楽しんで頂きました。

神野さん「…私一人の力なんかじゃ何にもできません。だけど、何かを感じて、何かを深く考えて、自分の人生を、まず今日一日こうしていただけることは幸せだなんて思って生きていく。色んなことがあるけれど、絶対にやらなきゃいけない人間の仕事は<生きる>ということです。生きたくても生きたくても、生きられなかったサブリーンちゃんのような子どもたちが、地球上に一杯いるんです、数えられないくらい。私たちの国も、たった6年前です、信じられない地震に見舞われて。生きたくても生きたくてもそこで命がぷつと終わった人たちがどれだけいるでしょう、身近に。だから私は、毎日めいっぱい生きようと思っています。」とお話しされ、ラストナンバーに歌われた曲は『喜びましょう』でした。

最後は、筑波学院大学の野田美波子先生と学生の皆さんが作った「チョコレート之歌」アニメを見ながら参加者全員で大合唱のうちに幕を閉じました。お陰さまで会場を後にされた方々の表情が温かで優しい笑顔に包まれていたことがとても印象的なイベントとなりました。



写真撮影：志葉玲



イラク 15（フィフティーン）～イラク戦争を振り返る 15 年展・ギャラリー日比谷展示会

毎年恒例のギャラリー日比谷での展示会は、2月9日～14日まで開催されました。イラク戦争から15年目を迎える2018年3月。奇しくも写真家の森住卓さんが膨大な量のイラク関係の作品を寄贈下さる運びとなり、森住さん、鈴木雄介さん、安田菜津紀さん、佐藤慧さんの写真家の方々、そして斉藤亮平アルビル駐在員の作品を展示しました。SUSUとサブリーンの原画、チョコ柄のキルト、改良が重ねられたサカベコスタジアム等々も並び、ギャラリーがジムネット色に染まった5日間となりました。

イベントも目白押しで、初日の鎌田實『頑張らないトーク』は例年通りの満席。2日目の江戸糸操り人形師・上条充さんとウッド演奏家・荻野仁子さんによる豪華共演では、栈敷席も満員となり、上条さんの手によりまるで息を吹き込まれた人形たちの動きと深いウッドの音色に会場からは何度も歓声が上がりました。3日目は安田菜津紀さんと佐藤事務局長のギャラリートーク。菜津紀さんのご提案で3階の様子を2階で生中継し、ご来場くださった多くの方々にもネット視聴頂くことができました。最終日の朝には、TOKYO MX テレビ『モーニングクロス』でイラク戦争、チョコ募金、そしてギャラリー日比谷展について下村健一さんと堀潤さんがお話し下さり、開場と同時に番組を視聴された方々で大賑わい。ギャラリーはまるで『モーニングクロス』オフ会のようになり、様々な話題で盛り上がった一日でした。毎年、この時期にギャラリー日比谷展示会で多くの方々とお目にかかり、お話を伺うことが励みとなっております。この場をお借りして、ご協力下さった方々とギャラリー日比谷の福石さまに感謝申し上げます。

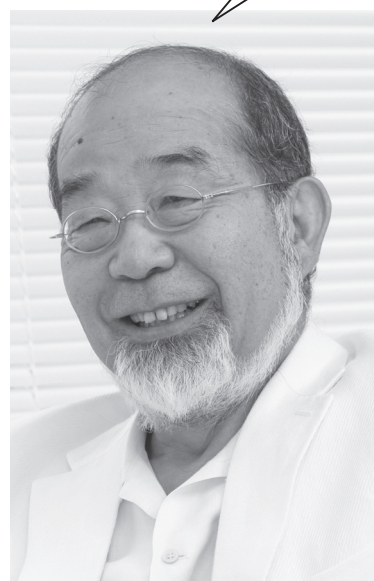
崔 麻里（JIM-NET 広報・イベント担当）



東日本大震災から
 ねっ年。みなさま
 の支援とチョコ募金
 から、福島支援まで
 来ました。芥川賞作家の
 柳井美里さんが、20キロラン
 の中の小高駅前で子ども
 たちのために、本屋を始めるの
 に応援をしてくれました。チョコが
 まだ少し残っています。ぜひ
 チョコ募金の支援、よろしく
 お願いいたします。
 2018 spring 鎌田 實



鎌田代表の
 直筆メッセージ



JIM-NET 募金グッズ☆今治タオルハンカチの新作できました！

今年も丸栄タオルさんのご協力で、新しいデザインのハンカチが2種類できました！

1枚は、SUSUが描いた2018チョコ募金の絵をプリントした『HAPPY チョコレートタオル（右）』。

もう1枚は、JIM-NETの絵の中でも人気のあるサブリーンが描いた絵をプリントした『HAPPY タオル』（左）です。

SUSUとサブリーンは同じ時期に同じ病院に入院していました。2人とも絵がとても上手で、たくさんの素敵な絵を描いてくれました。サブリーンはその後残念ながら亡くなりましたが、SUSUは元気になり、今では院内学級で絵を教えています。

タオルの大きさは25センチ角。白地に2018チョコ募金の絵またはサブリーンの絵がプリントされています。ちょっとしたプレゼントにぜひご利用ください！

（1枚500円・送料別）500円のうち210円が現地での支援になります。

お申込みは電話（03-6228-0746）

またはe-mail(info-jim@jim-net.net)まで。



アラビア語で「サイード」（HAPPY）という文字入りです。

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET） 電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net URL <http://jim-net.org>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanIraqMedicalNetwork> Twitter https://twitter.com/jim_net

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット（募金・サポーター会費はこちらへお願いします）

★ぜひ今後とも JIM-NET をご支援ください！